

函館高専の教員が携わる校務内容の概略

現在、わが国の高等教育機関においては大きな変革の波が押し寄せており、本校もそれに呼応し、全国高専に先駆けた高度化再編の実施や新たな履修コースの開設など、様々な教育体制改革を全校あげて取り組んでいます。

その一方で、産業基盤の中心が科学技術を基本とした「ものづくり」にあることは今後も変わりなく、これまで以上に国際的に活躍できる技術者の育成と同時に、「地方創生」の産業基盤を支える工学教育による「ものづくり」人材育成は、地域にある高専の重要な役割となっており、そのために、教員の英語でのコミュニケーション力も重視しております。

高専は、その教育目標や学生の年齢層（本科：16～20歳、専攻科：21～22歳）の幅広さなどから、大学や高等学校とは本質的に異なる点があり、そこが特徴となっています。

そのため、教員は、教育、研究、学生の生活指導などに対する、深い情熱と積極的な姿勢が求められます。

ここでは、函館高専教員の校務について、認識をさらに深めていただくために、その主なものを記します。

(1) 授業

教員の担当授業時数は、本科における講義が週約6～8時間、実験実習や卒業研究などが週約12～14時間です。さらに、専攻科の講義や実験実習などがこれに加わります。定期試験は年4回あり、前期末と学年末には成績不振学生に対する特別指導など、全員合格を目指して指導します。実験実習科目では、実験指導とレポート添削指導が重要です。また、教員相互に行う授業観察や年度末などに行う学生による授業評価などを通して、教育方法の改善に継続的に取り組むことが求められています。

(2) 卒業研究・特別研究指導

卒業研究は、本科における教育の集大成として非常に重要な役割を持ち、また、教員と学生の密接なつながりの中で成り立つ科目ですので、よりいっそう教員の指導力が要求されます。教員一人あたり2～5名の学生を指導します。また、教員一人あたり1～3名の専攻科学生を担当し特別研究指導を行います。

さらに、研究成果をベースに学位授与機構への申請手続きなども、担当教員が指導します。

(3) 研究

高専の教員は、教育面や学校運営への参画のみならず、研究面での業績も求められます。研究に対する意欲的な姿勢と成果が学校全体の教育研究面の活性化を促し、さらには地域社会への貢献につながることを期待されています。

(4) 学級担任

本学科の教員には、主に第3～第5学年の学級担任をしていただく可能性があります。学級担任は、一学級40人程度の学生への勉学や生活指導など、学生生活全般にわたるきめ細かな指導が強く求められます。例えば、高等学校と同様に、毎日、教室清掃の指導がありますし、体育祭や高専祭など各種行事での指導、学生への個人面接や保護者との懇談なども重要な職務となっています。また、4年生については学外実習の指導、見学旅行の引率指導、5年生については就職・進学への進路指導を行います。

(5) 各種委員会・会議

本校には、教務委員会、学生委員会、寮務委員会をはじめ、各種の委員会があります。学級担任との兼務あるいは複数の委員会に所属することもあります。委員会に所属した場合には、多岐にわたる仕事をこなすことが求められます。例えば、寮務委員会は月一度程度の宿直に加えて、学寮内の巡回、寮生の日常生活の指導、寮での各種行事・寮生会所属の各委員会活動の指導などを行います。その他、定期的に学科会議や教員会議等が行われます。情報交換や学校運営に対する意見の集約等を行う重要なものとなっています。

(6) クラブ顧問

クラブ顧問としての日常的な指導をはじめ、運動系の場合には、高専体育大会（地区大会・全国大会）の運営や高体連などの各種大会および練習試合の引率、合宿時の指導などがあります。

(7) 学寮の宿日直

本校では、原則として全教員に学寮の宿直と日直（日直は土・日・祝日のみ）が割り当てられます。寮務委員以外には年数回の割り当てですが、女子寮も設置されており女性教員による宿直もあります。200名近い男女寮生を指導するこの職務は、本校教員の重要な教育業務の一つです。

(8) 社会貢献

本校では、共同研究、受託研究、公開講座、出前講座など様々な形で地域連携活動を展開しています。地域社会からも様々な形で本校に対する要望が寄せられます。地域連携活動が学生教育へ及ぼす効果に加え、地域に根ざした高専としての存在価値を高めるためにも、高専教員には積極的に地域社会に対して貢献する姿勢が要求されます。